

**平成26年度未来経営戦略推進経費  
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業**

<b>法人名</b>	<b>比治山学園</b>	<b>学校名</b>	<b>比治山大学</b>
------------	--------------	------------	--------------

<b>表題</b>	<b>教職協働による「学生支援型 IR」の構築</b>
-----------	-----------------------------

### 取組みの概略

#### ○これまでの状況

IR システムの構築として、中期総合プランの課題である中途退学と就職率向上に向けた課題解決を図ることと教学改革を進めるために、平成25年7月にIRを専門に行う部署IR委員会を設置した。IR委員会は、大学の戦略立案機関である大学運営戦略本部内の組織に位置付け学長直下に設置された。構成員は、学長と心理学と学生支援を専門領域にもつ教員2名、事務局各部署（入試広報、キャリア、学生支援、総務、学長室）の職員5名の計7名で構成する。

IR で得られた情報を、大学運営戦略本部の戦略決定の場面に反映できるようになっている。エンロールメント・マネジメントの観点から①入学試験の成績や入試区分、高校の成績・評定平均値、高校の欠席状況、入学前教育の受講の有無、②履修登録、学業成績、出席状況等の教務情報、クラブ・サークルの所属などの学生生活の情報等、③プレースメントテストや外部機関が行う性格検査や基礎学力試験の結果などのキャリア支援に関する情報と卒業後の進路決定先等の就職に関する情報、④授業評価アンケートや卒業生を対象とした満足度調査の結果など各部署で持つデータを集めて、データベース化し、一元管理を進めている。また、各部署が独自に管理するデータも連結させて、入学前から卒業後までの学生の成長過程が把握できるデータベースを構築し、統計分析を行い、意思決定機関である学長と大学運営戦略本部にフィードバックしている。

#### ○目的

本事業の目的は、これまで集めたデータを教学改革に結びつけるための取組を行うことである。本学の教学に関する三つの大きな課題を解決するために、教学に関わるデータの可視化を行い、現状を明らかにする。一つ目の課題は中途退学者と休学者数の多さである。二つ目の課題は、就職活動につながらない学生への就職支援である。三つ目の課題は、「学びの質保証」として「学生の学びの実態調査」が進んでおらず、教学改革につながっていないことである。これを踏まえて、集めたデータと教学改革を結びつけるための「学生支援型 IR」の構築を行うことを目的とする。

#### ○調査分析するデータの内容と活用方法（教学改革への反映状況）

##### 【調査内容】

- ・調査項目：入学前から卒業後までの各段階の情報のデータを収集し一元管理化
- ・調査方法：一元管理するデータと開発した指標から構成する質問紙を作成し、学生と教職員を対象に調査する。
- ・データ集計・分析手法：調査データの基盤になるシステムは、学生情報管理システム“Hi!Way”と“GAKUEN”をベースにプラットフォームにし、一元管理を行い集計する。
- ・システム開発と運用管理：職員のスキル向上を図り、各部署の日常業務で捉えた学生像と照らし合わせて分析ができるようにする。また、学長室に所属する IR 担当の専任の職員が中心となって、システムの運用管理を行う。

##### 【活用方法】

教学が抱える三つの課題解決に向けて活用する。一つ目の課題である休退学を防ぐために、要因を明らかにして、学生支援体制の見直しと強化を図る。例えば、学習面に不安を感じる学生に対応するために学内の相談機関の見直しと経済的な事情を抱える学生への奨学金の拡充策、入試改革、入学前教育の見直しを考えられる。二つ目の課題である就職支援では、低学年からの丁寧なキャリア形成を行う。そのためには、キャリア関連科目のカリキュラムの見直しとインターンシップへの参加の動機づけなど授業計画の立案に活用したいと考えている。三つ目の「学びの質保証」を目指した教学改革に向けて、AP 質的転換加速化本部で開発された独自指標等の学生の「学びに関わる」動向や行動傾向の調査結果等も連動させてい

く。それは全学の授業改善や学生支援等の教学改革で活用されるデータになり、教学と学生支援の補強を講じることができる。また、外部機関に委託している学力調査の結果と合わせて分析することは、学生の基礎学力や汎用的能力の弱みと強みを理解でき、個別の支援や対応策を講じることができる。これらの分析した結果については、学長と大学運営戦略本部会議に定期的に報告し、大学経営にも反映させる。さらに、教職員にはFDとSD開催時に分析結果を説明し、IR委員会だけで情報を抱えるのではなく、委員の所属する関連部署と有機的な連携を図る。

## ○実施管理体制

<第1段階> Plan【P】とDo【D】の段階

- ・既存のIR委員会で収集したデータベースの確認と更新
- ・学部や事務局、各種委員会が独自に持つデータの項目確認と収集
- ・AP質的転換加速化本部で行われた調査項目（独自開発指標含む）の確認と収集
- ・IR委員会の職員の育成（意志決定に活用可能なデータに加工・統計分析、プレゼンテーション、提案できる職員）
- ・IR委員会から、学長と大学運営戦略本部会議に定期報告を行う
- ・IR委員会の活動に対する比治山大学高等教育研究所からの自己点検と自己評価を行う

<第2段階> Check【C】とAction【A】の段階

- ・分析結果を、意思決定機関である大学運営戦略本部会議へ報告、FD・SDで教職員へフィードバックし、改善策を検討する
- ・IR委員会の活動と大学組織でのIRの利用に対する外部評価（有識者や銀行等の地元企業を含む第三者委員会）を受ける。外部評価は、学長と大学運営戦略本部にフィードバックされ、IR委員会の活動と組織での運用・活用の見直しをはかる
- ・認証評価やFD・SD活動との連携
- ・休退学予防に向けた学生支援体制を強化した教学改革、入試改革、奨学金改革等の実現へ
- ・ホームページや報告書を作成しIRで得たデータと活用について学外へ発信する

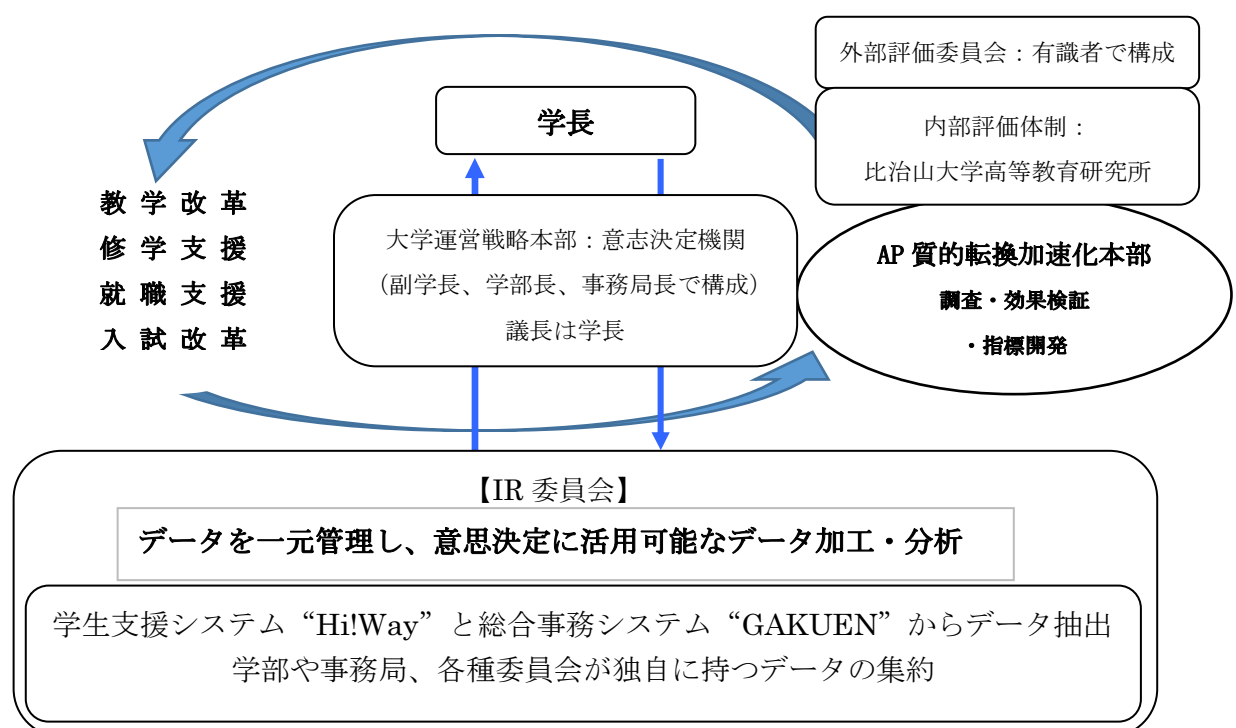
<評価体制> Check【C】体制

- ・自己評価…学内機関である高等教育研究所から自己点検と自己評価
- ・外部評価…第三者評価機関を設置し、IRと大学運営に関する有識者から評価
- ・評価項目…データ分析と活用方法、開発した指標について、大学意思決定機関との連動・連携の在り方、関連部署との協働・連携、職員のデータ分析能力育成について等

<セキュリティ対策>

セキュリティ管理者の決定（IR委員長）、PCやデータ保管管理場所の決定（学長室）

データの持ち出しやインターネット接続などに関する規定、情報システム室からのデータ移動者の制限



## ○職員的能力向上

統計知識や分析などの専門的知識を持つ職員は少なく、データを活用したプレゼンテーションやコンサルテーションについてはこれから身につける必要がある。分析結果を、FDやSDなど他の教職員に説明するプレゼンテーションスキルも身につけていく必要があることと、大学運営戦略に活かしていくには、教員へのコンサルテーション的な役割も必要と考えている。

そこで、IR委員会に関わる職員的能力向上を図るべく、分析視点の感覚を養うために学内の統計分析に関する専門家による研修と統計分析やプレゼンテーションスキル、コンサルテーションスキルについては学外での研修会や先進校視察を行い学べる環境整備を行う。学外の研修や他大学との情報連携も積極的に行い、職員的能力向上を図っていく。また、統計を専門としないスタッフも統計処理をスムーズに行うために、専門知識を持たないものでも統計処理が可能な統計処理のソフトを導入し環境整備も行っていく。さらに、プレゼンテーション力とコンサルテーション力を養成するために、学長と大学運営戦略本部会議への定例報告やFD・SDでの発表などの回数を増やしていく。

